

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話Ⅲ) General English III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	エアライン科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	

【担当教員 実務者経験】

私はシェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

日常生活や、ビジネスなどの様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。

【到達目標】

様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。

授業計画・内容

1回目	ビジネス電話でのリクエスト対応や、情報提供が出来るようになる
2回目	ビジネス電話での取次や、メッセージのやり取りが出来るようになる
3回目	クレームについての文化の違いを学ぶ
4回目	対面でのクレーム処理が出来るようになる
5回目	ビジネス電話でのクレーム処理が出来るようになる
6回目	電話での部屋の予約とレストランの予約を受けることが出来るようになる。
7回目	外貨両替についての英語でのやり取りが出来るようになる
8回目	クレジットカード会社とのやり取りを学ぶ
9回目	支払に関する対応が出来るようになる
10回目	様々なエージェントとのやり取りを総括的に学ぶ
11回目	ディベートとロールプレイ
12回目	ディベートとロールプレイ
13回目	ディベートとロールプレイ
14回目	試験
15回目	試験返却と振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。
受講生への メッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話IV) General English IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	エアライン科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

シェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

授業の内容は説明とプレゼンテーションの準備方法です。テキスト、フォーマット、視覚教材など。学生は自分でプレゼンテーションを作成し、定期的にそれらを練習し、そして毎週オンライン課題を提出します。最終発表は各学生が行います。ビデオ、オンラインタスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。

【到達目標】

このクラスの目的は、生徒が自信を持ってプレゼンテーションをする経験を積むことです。この経験を積むことにより、公の場で話し、ゲストに情報を提供する準備をします。

授業計画・内容

1回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
2回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
3回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
4回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
5回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
6回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
7回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
8回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
9回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
10回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
11回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
12回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
13回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。
14回目	前期末試験
15回目	前期末試験/答え合わせ・振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
オリジナルテキスト	

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンスキル (キャリアプログラムⅢ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Career ProgramⅢ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
【授業の学習内容】							
ワークブックとテキストを使用しながら、コミュニケーションの技法を学んでいく。事前学習⇒演習⇒グループ討論⇒振り返りの順に行い、皆が取り組むようにする。							
【到達目標】							
コミュニケーション力ををあげるため、様々なワークを行いながら"自分自身"・"対話相手"を考えて対応ができるようになる。またその学びから接客対応につなげていく。							
授業計画・内容							
1回目	【授業内容の説明】テキストとワークブックの使用説明、授業内容を説明し、この授業の目的を理解することができる。						
2回目	【伝達ゲーム】言葉だけで伝えることの難しさを実感し、伝え方の見直しをすることができる。						
3回目	【ブレインストーミング・KJ法①】前回の振り返りを行う。ブレインストーミングとKJ法を使い、グループ討論を実際に行っていく。						
4回目	【ブレインストーミング・KJ法②】前回の振り返りを行う。ブレインストーミングとKJ法を使い、前回の技法の復習も含め、グループ討論を実際に行っていく。						
5回目	【ブレインストーミング・KJ法③】前回の振り返りを行う。ブレインストーミングとKJ法を使い、前回の技法の復習も含め、付箋の使用無しでグループ討論を実際に行っていく。発表につなげることで、考え方は一つではないことを実感することができる。						
6回目	【聞き上手の技法】自己紹介を行い、聞き方はどうだったかをお互いに評価し合うことで、相手の受け取り方、自分の態度を改めることができる。						
7回目	【話し上手の技法】話し上手とはどのようなことをいうのか。グループワークを行い、「話し上手」の態度を探し出し、普段の自分と比べて態度を改めることができる。						
8回目	【説得上手の技法①】説得はどのように行えば気持ちよく話を受け入れられる態度となるのかを考えながらグループワークを行うことができる。						
9回目	【説得上手の技法②】前回の授業を振り返り、説得上手の姿勢で、他のグループを説得する「売り込みゲーム」を行い、どの姿勢が良かったのか検証することができる。						
10回目	【読み上手①】技法を学び、文章をうまく読む方法をつかむことができる技法を学ぶ。						
11回目	【読み上手②】技法を学んだ上で、課題を読み感想を記入する。以前の読み方とどのような変化があったか検証することができる。						
12回目	【読み上手③】課題の感想「なぜそこに惹かれたのか」を発表し合い、様々な意見があり、読む人によって感じ取り方が異なることを理解することができる。						
13回目	【自己PR①】ブレインストーミング・KJ法を振り返る。技法を使い、自己PRを考える。						
14回目	【自己PR②】自己PRを行い、相手に「自分はどんな人間なのか」をテーマを付けて発表。相手の良いところを発見することができる。「自分が努力してきたこと」について次回までに考える。						
15回目	【自己PR③】「自分が努力してきたこと」の課題について相手に発表し、良かったポイントを評価してもらい、授業の学びから自分の成長を発見することができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。 ・最終課題評価+ノート提出の仕上がり						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンスキル (キャリアプログラムⅣ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
	Career ProgramⅣ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】						
【授業の学習内容】						
ワークブックとテキストを使用しながら、コミュニケーションの技法を学んでいく。事前学習⇒演習⇒グループ討論⇒振り返りの順に行い、皆が取り組むようにする。						
【到達目標】						
コミュニケーション力をあげるため、様々なワークを行いながら"自分自身"、"対話相手"を考えて対応ができるようになる。自己の見つめなおしと自己発見を行うことで、自分の強みと弱みを理解し、社会人に向けての課題を発見することができる。						

授業計画・内容	
1回目	【授業内容の説明】テキストとワークブックの使用説明、授業内容を説明し、この授業の目的を理解することができる。
2回目	【ブラインドワーク】五感を使い「ブラインドワーク」を行う。物事の伝え方をしっかりと考えて「相手に正しく伝える」ということを学ぶことができる。
3回目	【自分探しの技法①】自分史の年表の説明を行い、作成を行う。
4回目	【自分探しの技法②】自分史の作成を行う。自分史を使い、自分の過去と転機を見つめなおすことができる。また努力した手柄を発見することができる。
5回目	【インタビューの技法①】自分史を使いながら、相手に「自分らしさ」を発表する。インタビューを行い、「相手に質問する」ポイントを掴むことができる。
6回目	【インタビューの技法と他己紹介】インタビューの内容をうまくまとめ、他己紹介を行う。キャッチフレーズを付けて相手を紹介する方法を学ぶことができる。
7回目	【私とわたし①】自分がおもう自分と相手がみた自分の比較を行い、自分の新しい一面を発見することができる。
8回目	【私とわたし②】連想ゲームを行い、相手の「イメージ」と本当の相手を理解し、新しい一面を発見することができる。
9回目	【言葉ゲーム】自分の考えが相手にそのまま伝わるかどうか、ゲームを行い、その後検証することで「伝え方」の方法を見つめなおすことができる。
10回目	【質問ゲーム】手持ちのカードの中で誰が違うカードを持っているかを質問しながら探り合う。相手のしぐさや反応をしっかりと見て洞察力・思考力を高めることができる。
11回目	【グループディスカッション①】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
12回目	【グループディスカッション②】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
13回目	【グループディスカッション③】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
14回目	【何年後かの自分へ】今までの学びを通し、成長した自分をイメージしながら手紙を書くことで、目指す夢を再確認することができる。
15回目	【総まとめ】今までの学びを振り返り、初回授業からの成長を再確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における 技術評価 は、以下の割合にておこなう。 ・グループディスカッション3課題の取り組み姿勢
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・アドバンス I) Core Management Advance I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	トラベル&レジャー科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
<p>ブライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。1年時に学んだスキルの理解を深めながら応用することで、脳の構造及び心理と自分自身のステイトマネジメントを学ぶ。</p>							
【到達目標】							
<p>1つ目に、心理学的な脳の仕組みを理解する。2つ目に、生まれ持ってきている人間のエネルギーバランスを理解する。そして3つ目に、この2つを使って良好なコミュニケーションスキルを習得し、実生活で活用する。</p>							

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション、目標設定) 学習の5段階を説明。5段階目の必要性、目標達成の為にコミュニケーションを理解し、目標設定をする
2回目	(フォートロジー①) 1番強いエネルギーと一番弱いエネルギーを理解する
3回目	(フォートロジー②) 4タイプ別の相性と攻略法を理解する
4回目	(フォートロジー③) 4タイプ別の接客の極意を理解する
5回目	(フォートロジー④) 4タイプ別のノルマに対する反応を理解する
6回目	(フォートロジー⑤) 4タイプ別の指導の仕方、褒め方を理解する
7回目	(フォートロジー⑥) フォートロジーを活用した企画とプレゼンのワークで理解を深める
8回目	(一致と不一致、ニューロロジカルレベル) 自分の内面に意識を向けることを理解する
9回目	(知覚フィルター、思い込み) 情報の認識は自分の世界観であり、それが外的表現に現れることを理解する
10回目	(3人のメンター、存在の承認) 良い助言者の存在や、スポンサーシップを理解する
11回目	(モデリング、効果的質問、バリュー) 良いモデルから学ぶスキル、問題解決の質問スキル、価値基準の出し方を理解する
12回目	(潜在意識に影響を与える言語モデル) 心理的に作用する言語の組み立て方を理解する
13回目	(夏休み課題の確認、NLPの復習) 夏休みの課題を発表する。NLPの復習をして理解を深める
14回目	(メタファー、ネステッドループ) たとえ話を使った伝え方、心理に働きかけるプレゼンテーションのスキルを理解する
15回目	(影響言語テスト、前期まとめ) 影響言語のテストをする。前期のまとめをして理解を深める
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎制作課題の提出率および完成度100%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構(コアマネジメントアドバンス)	

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・アドバンスⅡ) Core Management AdvanceⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	トラベル&レジャー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
<p>ブライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。社会生活に向けての、自分自身のステイマネジメント、目標設定の仕方やプレゼンテーション力を高める。</p>							
【到達目標】							
<p>心理を使い、社会生活に適応できる、コミュニケーション力とプレゼンテーション力を習得する。</p>							

回数	授業計画・内容
1回目	フォートロジーの復習。社会人としてストレスに打ち勝つための自分を知ることができる。
2回目	言語による心理(ミントンモデル)を習得することができる。
3回目	診断テスト解説により、自分の気質をより深くいかすことができる。
4回目	方向性・判断基準の言語の違いを取得することができる。
5回目	選択理由・変化・相違対応の言語の違いを取得することができる。
6回目	システム・主体性の言語の違いを取得することができる。
7回目	影響言語のまとめを行う。
8回目	効果的な言語を使つてのプレゼンテーションを行うことができる。
9回目	比喩・たとえ話を使った伝え方を習得することができる。
10回目	長期休みの課題を確認し、復習する。
11回目	接客におけるプレゼン知識を身につけることができる。
12回目	心理に働きかけるプレゼンテーションの手法を習得することができる。
13回目	社会人の目標の作り方と意味を習得することができる。
14回目	未来の宝地図を作成する。
15回目	未来の宝地図を完成する。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎制作課題の提出率および完成度100%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構(コアマネジメントアドバンス)	

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (華道 I)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	
	flower arrangement I	授業 形態	・講義 ・実習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	

【担当教員_実務者経験】

1992年～1995までグラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザインを行う。1996年～2010年まで専門学校関連にてグラフィックデザイナー、ディレクション等の仕事を行う。華道歴22年、個人にて華道教室を行って8年。茶道歴15年、茶道教室を行って2年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。

【授業の学習内容】

生け花の基礎を学ぶ。(道具の使い方、生け花の歴史、フラワーアレンジメントとの違い、色合わせや花合わせについて、場の演出について、行事と花についてなど。)
生け花の成り立ちを通して、日本人が「自然」とどのように関わってきたかを学ぶ。生け花の歴史を探ると、日本人のものの考え方や精神性は「自然」が大きく関連していることが分かる。それを自覚することは今後の個人の大きな礎になると思われる。

【到達目標】

生け花を通じて、日本理解を深める。
花でもてなす楽しさを感じ、空間演出に際して花が重要であるという感性を身につける。
基礎的な「生け花」ができるようになり、花を通じて日本を語れるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容	
1回目		(オリエンテーション)レポートの書き方①免状取得について。ハサミ・剣山の使い方、生け花についての概要を知る。	【自由花実習】
2回目		(オリエンテーション)レポートの書き方②デッサン 簡潔なデッサンでデザインを他者に伝えられるようになる。	【自由花実習】
3回目		(オリエンテーション)レポートの書き方③レポートの書き方補足指導 「よくわかる池坊いけばな」DVD鑑賞 更に生け花についての理解を深める。	【自由花実習】
4回目		(植物の扱い①)水揚げ法 植物を大切に扱う方法を学ぶ。	【自由花実習】
5回目		(植物の扱い②)矯める方法 植物の動きを生かす技を習得する。	【自由花実習】
6回目		(作品鑑賞①)教科書の作例を観る 縦・横・斜めの作品の違いが分かるようになる	【自由花実習】
7回目		(作品鑑賞②)教科書の作例を観る 様々な表現方法を知る。	【自由花実習】
8回目		(生け花の歴史①)立花・生花・自由花について、それぞれの違いが分かるようになる。	【自由花実習】
9回目		(生け花の歴史②)生け花の始まり、歴史を知る。	【自由花実習】
10回目		(花の文化①)日本人の自然観について日本人の自然に対する感じ方を生け花の歴史から学ぶ。	【自由花実習】
11回目		(花の文化②)日本人と西洋人 それぞれの文化を比較し、花文化の違いを認識することで異文化理解ができるようになる。	【自由花実習】
12回目		(花の文化③)生け花とフラワーアレンジメントの違い それぞれの違いが理解できるようになる。	【自由花実習】
13回目		(花のコーディネート①)季節感、色合わせ、花合わせについて ハーモニーの重要性を理解する。	【自由花実習】
14回目		(花のコーディネート②)場の演出について 花を用いた空間演出の作例を鑑賞し、空間装飾の感性を養う。	【自由花実習】
15回目		(花のコーディネート③)行事と花について。花と行事の関わりを知り、花でもてなしができるような感性を養う。	【自由花実習】

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・各回のレポート 90% (レポートの内容+完成度をもって理解度とする)
・各回の実技演習 10%

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

いけばな池坊 自由花入門カリキュラム お稽古ノート → 学校より貸出 (都度返却要)

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (茶道Ⅱ) tea ceremonyⅡ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習実習	総時間 (単位)	30	開講区分	後期
					2	曜日/時限	水曜/3限

【担当教員・実務者経歴】

大学時に師に出会い入門。2009年専任講師取得。カルチャースクール講師アシスタントとして活動。

【授業の学習内容】

茶道の意義、茶道で教えられるおもてなしの心を理解し一つ一皿を共にする喜びを感じ、他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。

【到達目標】

茶道を学ぶことによって和室での立ち居振る舞いできるようになる。おもてなしの心を身につけ平点前ができるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション: 茶道の意義を知る。薄茶平点前: 風炉 前期の復習
2回目		薄茶平点前: 風炉 お仕舞いまでを学ぶことができる
3回目		薄茶平点前: 風炉 お仕舞いまでを学ぶことができる
4回目		薄茶平点前①: 炉 柄杓の扱い、座る位置、運び出し等を学習することができる
5回目		薄茶平点前②: 炉 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習をすることができる
6回目		薄茶平点前③: 炉 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習をすることができる
7回目		薄茶平点前④: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いを学ぶことができる
8回目		薄茶平点前⑤: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで通して学習をすることができる
9回目		薄茶平点前⑥: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで通して学習をすることができる
10回目		薄茶平点前⑦: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで通して学習をすることができる
11回目		薄茶平点前⑧: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで身につけるようにすることができる
12回目		薄茶平点前⑨: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで身につけるようにすることができる
13回目		前期試験: 薄茶平点前
14回目		前期試験: 薄茶平点前
15回目		亭主と客にわかれ心をこめて茶を点てる。一期一会の時間を大切にす。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
◎実技試験100点

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	業界研究 (企業研究Ⅲ) Business Reserch III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	

【担当教員_実務者経験】

【授業の学習内容】

企業様より取り組み課題をいただき、自発的に調査、リサーチを行ったうえでチームワーク力を高めながらプランニング・プレゼンテーションを行う。

【到達目標】

企業様からの課題をしっかりと理解した上で、グループで課題に取り組み、プレゼンテーションを行うことができる。

回数	授業計画・内容
1回目	企業プロジェクトの目的、心構えについて学ぶ。事前準備として、自己紹介を含むグループ分けを行うことができる。
2回目	企業様から課題発表。課題に対して取り組まなければならない事項を理解することができる。チーム発表。
3回目	プレゼンテーション発表までのスケジュールを組むことができる。 取り組み方について考えることができる。
4回目	課題に対してリサーチすることができる①
5回目	課題に対してリサーチすることができる②
6回目	課題に対してリサーチすることができる③
7回目	中間発表:企業様に対し、課題に対する取り組みの進捗状況を報告し、この先の取り組み方について考え直すことができる。
8回目	中間発表でいただいた企業様のフィードバックを行い、改めて取り組みを再開する。
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	課題に対してリサーチし、報告書、プレゼンテーション資料を作成する。
14回目	最終プレゼンテーションに向けて、練習、資料の見直しを行うことができる。
15回目	最終プレゼンテーション:企業様から取り組みに対する評価をいただく。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「発表内容」で行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコルⅢ) Manor protocol Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

【授業の学習内容】

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコル、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコルを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコル」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・前期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコル検定2級もしくは3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション: 授業の目的、進め方等を理解できる。また、マナー・プロトコル検定2級、3級試験の内容が理解できる 理解度確認テスト: マナー・プロトコル検定練習問題を活用したテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる マナーとは何か: 慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコルを学ぶ意義が説明できるようになる
2回目		マナーの歴史と意味: 日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ち、アジアのマナーについて説明できるようになる 国際人としてのプロトコル①: プロトコルの原則、具体的な席次例、社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナーが説明できるようになる
3回目		国際人としてのプロトコル②: 挨拶・握手と紹介のマナー、外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる
4回目		小テスト: 授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①: 第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞いに、敬語の種類と変換、敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるとともに好印象のマナーが実践ができるようになる
5回目		社会人に必要なマナー②: 和装・洋装のマナー、喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方、手紙のマナーについて説明できるようになる
6回目		ビジネスシーンのマナー: ビジスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方、電話対応のマナー、トラブル対応、来客対応のマナー、ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる
7回目		小テスト: 授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 食事のマナー①: テーブルマナーの基本、和食のマナー、日本料理の基本知識、食事のいただき方、美しい箸使い、食事中のタブー、和室の作法について説明できるようになる
8回目		食事のマナー②: 西洋料理のマナー、テーブルセッティング、カトラリーの使い方、食事のいただき方、中国料理と各国料理のマナーについて説明できるようになる
9回目		お酒のマナー: お酒の種類、ワインの基本知識、その他のお酒の楽しみ方について説明できるようになる
10回目		小テスト: 授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 「冠」のしきたり: 冠婚葬祭、陰陽道の考え方、日本の主な通過儀礼、出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、その他のお祝い事について説明できるようになる
11回目		「婚」のしきたり: 結婚の宴通、結納のマナー、挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー、ふくさの使い方について理解できるようになる 「葬」のしきたり: 仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀、葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて理解できるようになる
12回目		「祭」のしきたり: 4月の行事、5月の行事、6月の行事、7月の行事、8月の行事、9月の行事、10月の行事、11月の行事、12月の行事について説明できるようになる
13回目		★前期試験: 1～11回目の授業を振り返り、試験を行う。自身の強み・弱みを認識する
14回目		前期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 模擬試験および質疑応答により、検定2級、3級に向けて自信が持てるようになる
15回目		マナー・プロトコル検定2級、3級 試験実施
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
マナー&プロトコルの基礎知識		

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキングⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
	Walking & Posture II	授業 形態	実習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	エライノ科				2	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】						
<p>大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起る健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>後期は前期に引き続きフラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。 また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。 外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。 信頼感の与えられる人材を育てる。</p>						
【到達目標】						
<p>就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。 姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。</p>						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		前期に続き姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手しぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバン)の持ち方・傘の持ち方などを仕草一つで表現できるようになる。
2回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようになる。笑顔のもらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようにする。(手鏡ご持参ください。)
3回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びにエレガントに魅せるしやがみ方等できるようになる。
4回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティ、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学ぶことができるようになる。
5回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしくないマナーを理解してできるようになる。)
6回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
7回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
8回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
9回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
10回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
11回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
12回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
13回目		試験日
14回目		フィールドバック。
15回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・姿勢・ヒールウォーキング 60点 ・ジャケットの脱ぎ方たのみ方 40点
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン就職対策III Airline Employment MeasuresIII	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	西出 由佳 横木 成美
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経歴】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
就職活動に必要な自己分析、企業研究、履歴書/エントリーシートの書き方、面接/筆記対策などを講義、演習を通して身に付けていく。							
【到達目標】							
「エアライン実務」とも連携し、就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動できるレベルになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れを説明。授業に向けての抱負、エアライン就職メイク講座を通して、目指す姿をイメージする。
2回目		(自己分析①) 面接やエントリーシートで自分を存分に表現するために自分自身を振り返る。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
3回目		(自己分析②) 自分自身の長所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
4回目		(自己分析③) 自分自身の短所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
5回目		(企業研究①) エアライン業界における企業研究のコツを説明し、企業研究のイメージをつかむ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
6回目		(企業研究②) 企業研究を通して各企業の特徴を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
7回目		(模擬試験) 1～6回目の授業内容を反映した試験(筆記試験/面接試験)を実施し、今後の課題を認識・改善につなげることができる。
8回目		(エントリーシートの書き方①) 書き方のポイント・表現力を学ぶ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
9回目		(エントリーシートの書き方②) 自己分析を活かして自己PRを書くことができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
10回目		(エントリーシートの書き方③) 企業研究を活かして志望動機を書くことができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
11回目		(面接対策①) 面接の流れ、基礎対策を説明。入室から退室までの一連の流れを確認し、イメージをつかむ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
12回目		(面接対策②) 模擬面接にて自己PRを伝えることができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
13回目		(面接対策③) 模擬面接にて志望動機を伝えることができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
14回目		(前期試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
15回目		(総復習) 初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。 前期全体を通しての質疑応答を行い、自信を持って後期授業に臨むことができるようになる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使っての授業。 ・適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。 ・各授業終了前10分間は英語のみで授業を実施する。 		

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEICⅢ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	TOEICⅢ	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

子供英会話講師、英の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東瀬)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。

【授業の学習内容】

TOEICスコアUPにつながる中学レベルの基本文法の習得とTOEICらしい英語表現(単語や熟語など)の解説を中心にしますが、ビジネスで用いる英語の中でどのようにTOEIC知識が役立つかの話もしたいと考えています。基本的な授業の流れは以下の通りです。

テキスト問題文の文法ポイント解説→日常会話の中での使われ方の話→音読→時間があれば「銀のフレーズ」の一部解説

【到達目標】

TOEICスコア600点突破を目指す。リスニング 320/495点、リーディング 280/495点。履歴書で注目されるTOEICスコアは800点からですが、平均スコアが580点ほどであることを考えると800の壁は高い。TOEIC600は、自分で英語を自由に学習できるようになるレベルを指します。この辺りから英語ができるようになってきたという自覚が生まれます。まずは、英語力アップの突破をこの前期で感じて欲しいと思います。ちなみに、600点を突破するためには、基礎がある日本人で、400時間程度の勉強時間が必要と言われているので、皆さんの自宅学習のご協力なくして目標達成はあり得ません。皆さんは授業で伝えた情報を自宅でしっかりとインプットする努力をしてください。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション。TOEICスコアの伸ばし方、単語の覚え方が理解ができる。テキスト p.11-14(HW: テキストp.11-14を復習)
2回目		品詞の区別ができるようになる。テキスト p.20-25(HW: テキスト p.20-25をもう一度解く)
3回目		品詞の区別ができるようになる。テキスト p.26-31(HW: テキスト p.26-31をもう一度解く)
3回目		形容詞と副詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.32-35(HW: テキスト p.32-35をもう一度解く)
4回目		副詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.36-39(HW: テキスト p.36-39をもう一度解く)
5回目		進行形/受け身/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.40-43(HW: テキスト p.40-43をもう一度解く)
6回目		現在完了/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.44-47(HW: テキスト p.44-47をもう一度解く)
7回目		冠詞/代名詞/前置詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.48-51(HW: テキスト p.48-51をもう一度解く)
8回目		主語と動詞の関係を理解し、主語や伝えたい内容に合わせた正しい動詞の変化パターンを覚える。テキスト p.62-67(HW: テキスト p.62-67をもう一度解く)
9回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.74-77(HW: テキスト p.74-77をもう一度解く)
10回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.82-89(HW: テキスト p.82-89をもう一度解く)
11回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.90-93(HW: テキスト p.90-93をもう一度解く)
12回目		修飾表現のパターン。テキスト p.94-99(HW: テキスト p.94-99をもう一度解く)
13回目		品詞、時制の復習。テキスト p.28-29, 50-51, 82-83, 98-99/p.52-53
14回目		前期試験
15回目		前期試験の解説
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・単語クイズ(銀のフレーズ) 10% × 2 ・前期試験 20%
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
TOEIC(R) L&Rテスト 英文法 セロからスコアが稼げるドリル(授業、前期試験対策で使用) TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ(単語クイズ対策で使用)		

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEICⅣ) TOEICⅣ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員、実務者経験】						
<p>子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英会話」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英会話を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英会話を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英会話総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>文法力に特化した前期とは違い、後期ではリスニング・長文対策を行う。同時に各パートの傾向を掴み、本番でも緊張せずに臨めるだけの知識を身に付ける。また、毎週単語テストを実施して語彙力の増加にも力を入れる。</p>						
【到達目標】						
<p>12月のTOEIC試験で500点を狙える実力をつけられるようになる。 また、就職してから必要になるTOEICの勉強に備えて、自ら学ぶ方法を会得できるようになる。</p>						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		単語テスト / リスニング Part 1・2 : TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
2回目		単語テスト / リスニング Part3・4 : TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
3回目		単語テスト / リーディング Part6 ① : 前期に習ったことを踏まえて少し長い文章でも文意を捉えることができるようになる。
4回目		単語テスト / リーディング Part6 ②・Part7 ① : たくさんの文章に触れることで、様々な形式の文章に対応できるようになる。
5回目		単語テスト / リーディング Part7 ② : Part7の解き方を習得することで、長文に対する苦手意識を克服できるようになる。
6回目		単語テスト / リーディング Part7 ③ : 単語力に頼らなくても文意を捉えることができるようになる。
7回目		単語テスト / リーディング Part5 ① : 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
8回目		単語テスト / リーディング Part5 ② : 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
9回目		リスニング通しテスト: 実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が見えるようになる。
10回目		長文読解: スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
11回目		長文読解: スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
12回目		長文読解: 前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
13回目		後期試験
14回目		後期試験返却
15回目		総復習: これまでの総復習をすることでこれからの自分の課題を見つけることができるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】
公式TOEIC Listening&Reading 問題集4

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (英文法Ⅲ) English Grammar III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
<p>子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として「Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル」「Mr.Evineのリスニング力向上ブック」「中学英文法を修了するドリル2」(すべてアルク)や学校専売品「英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ」(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>中学レベルの英文法を日常会話(ビジネス英語も同じ)でどのように用いるのか、実際に会話をする場面をイメージしながら解説をします。基本的な1回の授業の流れは、各Dayで扱う文法ポイントの解説→問題文の解説→演習(口頭英作文)→Jump-Start!のディクテーション(音声を書き取る)で行う。</p>							
【到達目標】							
<p>自分の意見を持ち、自分の英語力で話せるようになる。特に、英語の4技能「読む」「話す」「聞く」に直接的に影響する英語の語順の基本パターン(文型)、時制、助動詞、疑問詞を用いた疑問文の語順を会話の中で意識して伝わる範囲のミスで発信できることを目指す。</p>							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション。英文法をどう英会話力につなげるのか理解できる。(今回のHW: ES Day 15)
2回目		現在形と過去形の区別ができる。ES Day 15(今回のHW: ES Day 16)
3回目		未来の表現の区別ができる。ES Day 16(今回のHW: ES Day 17)
4回目		現在形、過去形と進行形の区別ができる。ES Day 17(今回のHW: ES Day 18)
5回目		過去形と現在完了の区別ができる。ES Day 18(今回のHW: ES Day 19&20)
6回目		時制の復習。助動詞の区別ができる①。ES Day 19&20(今回のHW: ES Day 21&22)
7回目		助動詞の区別ができる②。助動詞の復習。ES Day 21&22(今回のHW: ES Day 8)
8回目		不定詞を理解できる。ES Day 8(今回のHW: ES Day 10&11)
9回目		疑問文と否定文、疑問詞が理解できる①。ES Day 10&11(今回のHW: ES Day 12)
10回目		疑問詞が理解できる②。ES Day 12(今回のHW: ES Day 13&14)
11回目		受け身の表現と復習ができる。ES Day 13&14(今回のHW: ES Day 1)
12回目		文型①。ES Day 1(今回のHW: ES Day 2)
13回目		文型②。ES Day 2(今回のHW: 前期試験対策)
14回目		前期試験
15回目		前期試験の解説
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(取り組み姿勢だけでなく毎回のHW小テストを数値化します)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・確認クイズ×2(10%×2) ・前期試験 20%
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
<p>「英文法総合問題集ES ～はじめて編～」 Jump-Start! 英語は39日であまくなる!</p>		

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (英文法Ⅳ) English Grammar IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
<p>子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>TOEIC試験では単純な英語力だけでは高得点は望めません。まずは文法のおさらいをし、その後TOEICの各パートごとの傾向と対策を学ぶ。また、それらを踏まえた上で実際に問題をたくさん解き、より本番に近い形での演習を行う。</p>							
【到達目標】							
<p>12月に控えるTOEIC試験で500点を突破できるような知識を習得する。 また、TOEICを通して中高の英文法を網羅し、あらゆる問題に対応できるようになる。</p>							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		品詞について①：形容詞の働きが理解できるようになる。
2回目		品詞について②：副詞の働きが理解できるようになる。
3回目		接続詞について①：名詞節の働きが理解できるようになる。
4回目		接続詞について②：副詞節の働きが理解できるようになる。
5回目		文法演習・解説①：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
6回目		文法演習・解説②：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
7回目		リスニング Part1・2 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
8回目		リスニング Part3・4 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
9回目		長文読解：スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
10回目		長文読解：スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
11回目		長文読解：前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
12回目		リスニング通しテスト：実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が見えるようになる。
13回目		定期試験
14回目		定期試験返却
15回目		後期学習内容の振り返りと総まとめ：これまでの総復習を行うことでこれから自分が取り組まないといけない課題が見えるようになる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
講師持参資料		

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座 (手話Ⅰ) Sign Language I	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義	総コマ数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経歴】							
手話通訳士として、現在本市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。							
【授業の学習内容】							
聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。							
【到達目標】							
職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション 聴覚障害者とのコミュニケーション方法について考える 基本接客用語を学ぶ
2回目		接客の基本である挨拶の手話を学ぶ。指文字を学ぶ(清音)。
3回目		日程や曜日に使う数字を覚える。宿泊費や渡航費、予約日や時間を表現できるようにする。指文字を学ぶ(清音)。
4回目		七條会話や予約の時に使える人や家族、色などの手話を学ぶ。指文字を学ぶ(濁音・半濁音など)。
5回目		仕事や職業の手話を学ぶ。自分の職業を紹介できるようにする。指文字を15回目までに読み取れるようにする。
6回目		趣味の手話を学ぶ。主に日常会話で使えるようにする。指文字の復習。
7回目		疑問の手話を学び、お客様に質問できるようにする。指文字の復習。
8回目		動詞を学ぶ。フロントでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
9回目		楽しいや悲しいなど感情の手話を使ってコミュニケーションすることを学ぶ。指文字の復習。
10回目		テキストの例文を日常生活に置き換え、学習する。カウンターでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
11回目		聴覚障害者との交流会。学習した手話を使ってコミュニケーションする方法を学ぶ。
12回目		前回の交流会を踏まえて、疑問点などの解決方法を学ぶ。
13回目		朝食や夕食、機内食などで使う食べ物の手話を学ぶ。
14回目		前期試験(手話技能検定5級と会話試験) 模擬試験と1～13回の講義の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
15回目		前期のまとめとこれからの目標(手話技能検定4級受験)について

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】 手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座 (手話Ⅱ) sign language Ⅱ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。

【授業の学習内容】

聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。

【到達目標】

職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		前期の復習 接客手話の確認 手話技能検定4級について
2回目		乗り物の手話を学ぶ。道案内や路線についての会話を学習する。
3回目		生活の手話を学ぶ。フロントや受付で使用する筆談について学ぶ。
4回目		形容詞・副詞の手話を学ぶ1。ホテル等で聴覚障害者からの依頼や質問に関する会話を学習する。
5回目		形容詞・副詞の手話を学ぶ2。旅行会社等の会話を学習する。
6回目		施設の手話を学ぶ1。ホテル等、館内施設の紹介や案内の会話を学習する。
7回目		施設の手話を学ぶ2。観光施設での会話を学習する。
8回目		これまでの復習及び数の手話を学ぶ。日常会話を学習する。
9回目		都道府県や地名の手話を学ぶ1。フロントやカウンターでの会話(おすすめの場所等)を学習する。
10回目		都道府県や地名の手話を学ぶ2。ツアーや旅行地での会話(おすすめの場所等)を学習する。
11回目		動詞の手話を学ぶ1。各自就職または就職を希望する分野の会話を考え、その会話を学習する。
12回目		動詞の手話を学ぶ2。今後に向けて聴覚障害者とのコミュニケーション方法を再度確認する。
13回目		手話技能検定4級対策。
14回目		後期試験(手話技能検定4級と会話試験) 模擬試験と1～13回の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
15回目		後期のまとめとこれからの目標(手話技能検定4級)について
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】 手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級		

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 (海外地理 I) Overseas Geography I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務)。その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。							
【授業の学習内容】							
旅行手配業務の一環として、海外地理を学習します。教本&地図、パンフレット、DVD、PPTを使用して、イメージがわくように、海外地理を学習します。また各自で地理ノートを作成、発表することでより興味もてる様になります。							
【到達目標】							
海外地理3級合格レベルを目指します。旅行業界だけでなく、海外旅行にも役立つ基礎知識を身につけます。							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション&ハワイ(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
2回目	アメリカ(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
3回目	カナダ (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
4回目	オーストラリア (DVD鑑賞、一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
5回目	オーストラリア (ケアンズ、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
6回目	ニュージーランド (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
7回目	韓国 (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
8回目	台湾(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
9回目	中国 (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
10回目	インドネシア、マレーシア、シンガポール(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
11回目	インド&ネパール(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
12回目	ベトナム&カンボジア(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
13回目	タイ (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
14回目	前期試験
15回目	総まとめ(アジアを中心に学んだ知識のまとめをすることで、総復習をすることができる。)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50%、授業態度10% 試験20%と課題20%で合計40%とする。課題はレポート作成と発表
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
すぐに役立つ海外ア旅行地理ベーシック400	

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 (海外地理Ⅱ) Overseas Geography II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】						
旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務)。その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。						
【授業の学習内容】						
旅行手配業務の一環として、海外地理を学習します。教本&地図、パンフレット、DVD、PPTを使用して、イメージしましょう。また各自で地理ノートを作成、発表することにより興味もてる様にします。						
【到達目標】						
海外地理9級合格レベルを目指します。旅行業界だけでなく、海外旅行にも役立つ基礎知識を身につけます。						

回数	授業計画・内容
1回目	世界の航空会社:授業全体のスケジュールを確認します。世界の様々な国の航空機について学びます
2回目	世界の空港:世界の様々な国の空港について学びます。就航地ごとの特色・名物について学びます。
3回目	世界の港:クルーズ船が発着する港町について紹介します。
4回目	世界の港:街の特徴や近隣の観光地について学びます(リゾート地理と運動)
5回目	フィールドワーク:神戸市の観光名所である北野・異人館 界隈を訪れます。異国風の街並みや人気の理由について考えます
6回目	フィールドワークで得た知識や経験を共有します
7回目	世界の物語:名作といわれる小説・童話・アニメ・映画とその舞台となった観光地や国について調べます。新旧様々な作品に触れて人気の理由を考えます
8回目	世界の物語:各自で担当作品を決め、物語の背景や舞台となった国や地域について調べます。
9回目	世界の物語:調べた内容を発表し、バラエティー豊かな世界の物語とその土地の魅力を学びます。
10回目	世界のクリスマス:国ごとのクリスマス・年末年始の過ごし方について学びます。
11回目	世界のクリスマス:この時期ならではの食事や習慣について紹介します。
12回目	世界のお土産:国ごとの有名な土産品について学びます。特産品や名物などについても紹介します。
13回目	世界のお土産:お土産品を通じて国ごとの習慣や文化について考えます。日本に持帰る時のルールや規制についても学びます。
14回目	世界の食:国ごとの有名な食事・食材について学びます。ワイン・コーヒーなどの飲料についても紹介します。
15回目	期末試験により、これまでの利式の定着を確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50%、授業態度10% 試験20%と課題20%で合計40%とする。課題はレポート作成と発表
【使用教科書・教材・参考書】	
すぐに役立つ海外ア旅行地理ベーシック400	

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン実務 (エアライン実務Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Practical airline III	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	

【担当教員・実務者経歴】

株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。
現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。

【授業の学習内容】

エアライン実務に関する基本的知識の習得並びに応用、またロールプレイングによりエアライン接遇の基本を体得する。ビデオ撮影・視聴やフィードバックにより自身の強みと改善点を理解する。

【到達目標】

エアライン実務に関する基本的知識を習得し、説明できるようになる。エアラインスタッフとして礎となるエアライン接遇の重要性を理解し、体現できるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション)エアライン実務を学ぶ意義を考え理解する。自身の強みを確認し、目指すCA,GS像をイメージする。
2回目		(エアラインで働く①) 目指すCA,GS像を明確にする。(DVD視聴、話し合い、目標設定)
3回目		(エアラインで働く②)航空業界で働く意識を醸成する。
4回目		(エアライン接遇の基本①)エアライン接遇について学び、自身の印象管理の重要性を理解する。演習を通して美しい立ち居振る舞いを体得する。
5回目		(エアライン接遇の基本②)エアライン接遇について学ぶ。接客用語・言葉遣いを学び、誤った敬語や学生言葉を修正する。事例について話し合い、職業理解を深める。
6回目		(航空業界の歩みと現状)航空業界の変換と今後の展望を学ぶことで、どのようなCA,GSが求められているのかを理解する。
7回目		(社会人として働く)「報・連・相」を学び、演習をとおして社会人としてのコミュニケーションの基本を体得する。
8回目		(エアライン実務①)CA/GSの基本業務を学ぶ。事例について話し合い、職業理解を深める。
9回目		(エアライン実務②)機内サービス・チェックインカウンター業務についての実践演習を行い、職業理解を深める。
10回目		(エアライン実務③)接客用語や話し方のポイントを学習し、演習を行うことで普段から使えるようになる。
11回目		(エアライン実務④)空港3レーダーコードを学ぶ。
12回目		(エアライン実務⑤)アナウンスの基本を学ぶ。演習をとおして発声と話し方の重要性を学ぶ。事例について話し合い、職業理解を深める。
13回目		(グループディスカッション&発表)GDをとおし、チームメンバーとしてのコミュニケーション力や主体性、また協調性を学ぶ。
14回目		(前期試験)実技試験・筆記試験
15回目		(前期授業の振り返り)前期の学習内容を復習し、後期の学びに繋げる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験・・・ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
必要に応じてレジュメ、参考資料配布		

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン実務 (エアライン実務IV)	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員
	Practical ailine IV	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限

【担当教員・実務者経歴】

株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。
現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。

【授業の学習内容】

「エアライン実務」に関する基本的知識の習得並びに応用、またロールプレイングによるエアライン接遇の5ポイントを体得する。更にはビデオ撮影・視聴を通して自身の強みと改善点を理解する。

【到達目標】

グランドスタッフ・キャビンアテンダントを始めとするエアライン業界の職業理解から自己理解を深め、自ら考え行動に移せるリーダーシップを有するエアラインスタッフ育成を目的とする。「エアライン実務」に関する基本的知識の習得はもとより、エアライン業界に従事する者としての礎となるエアライン接遇の理解並びに体現を目標とする。

回数	授業計画・内容
1回目	前期学習内容の定着度を確認、後期授業の目標並びに授業概要とルールの確認し、長期休みの成果発表を行うことができる。
2回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティーを体現できるよう実践する。
3回目	クレーム対応の基本を学び、実践演習を通して基本対応を体得する。
4回目	エアライン業界用語を学び、GS/CA業務理解を深める。 機材によって異なる座席番号等、シートコンフィギュレーション全般を学ぶ。
5回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティーを体現できるよう実践する。
6回目	GS/CA業務に欠くことのできない基本知識であるエアライン2レターコードの習得度を確認する。
7回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティーを体現できるよう実践する。
8回目	アナウンス練習を通して、声のコミュニケーションを習得する。 接客業に必要な基本的な言葉遣いを、実践を通して復習する。
9回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティーを体現できるよう実践する。
10回目	eチケットの見方、また時刻表に記載されている内容を理解する。 「日本の国益を守る」というミッションを持つC・I・Qの役割と基本知識を学ぶ。
11回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティーを体現できるよう実践する。
12回目	後期試験に向け、授業内容のポイントを復習またロールプレイングを確実なものとする。
13回目	ロールプレイング到達度確認・筆記試験・レポート提出
14回目	試験内容の振り返りと後期授業内容の復習。
15回目	エアライン実務の講義を通して習得したスキルとマインドを整理すると同時に、就職活動に向けエアライン業界に求められる人材像を再確認する。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・試験・・・ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100点とし、40%計算を行う。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

必要に応じてレジュメ、参考資料配布

授業シラバス

科目名 (英)	業界サービス (エアライン接客Ⅲ) OMOTENASHI MannersⅢ	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
					2	曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。
現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。

【授業の学習内容】

業界に関わらず社会人のマナーは必要である。
相手に好印象を与え、信頼につなげられる社会人マナーを習得する。

【到達目標】

今後学生という立場から社会人として様々な学びを身に付けていかなければならない。
この授業を通し、まずは就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動出来るレベルになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れ、社会人になるにあたってのマナーを説明。自己紹介を通して現在の自分の姿を確認する。
2回目		(第一印象) 第一印象の大切さを学ぶ。 (身だしなみ) 社会人として求められている身だしなみを学び、実際に身だしなみを整える。
3回目		(挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さを学ぶ。 (表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。表情管理方法を学び、普段の行動に活かすことができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付ける。(クッション言葉)
4回目		(立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いを習得する。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等)
5回目		(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の立ち居振る舞いを振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(肯定表現・敬語)
6回目		(コミュニケーション力) 自身のコミュニケーション力を知り、良いコミュニケーションが与える影響を知る。 (話し方・聴き方) 感じの良い話し方、聴き方を実践を交えて肌で感じるることができる。
7回目		(報告書作成) 報告書の書き方を習得し、実際に記入する。
8回目		(ビジネス文書) ビジネス文書の基礎を学ぶ。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(ビジネスにふさわしい言葉)
9回目		(来客対応の基本) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を習得することができる。
10回目		(言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(ビジネスにふさわしい言葉・話し言葉・書き言葉)
11回目		(電話対応の基本) 社会人として正しい電話対応の仕方を習得することができる。
12回目		(電話対応の基本) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。
13回目		(総復習) 前期で習得した内容を網羅したロールプレイを実施。
14回目		(前期試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
15回目		(試験解説) 試験の解説後、1年間の振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100とし、40% 計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
パワーポイントを使つての授業。 適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。		

授業シラバス

科目名 (英)	業界サービス (エアライン接客IV)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	OMOTENASHI MannersIV	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。
現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。

【授業の学習内容】

業界に関わらず社会人のマナーは必要である。
相手に好印象を与え、信頼につなげられる社会人マナーを習得する。

【到達目標】

前期に引き続き、まずは就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に着け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動できるレベルになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れ説明。社会人になるにあたってのマナーを復習。自己紹介を通して前期からの成長を実感することができる。
2回目		(第一印象) 第一印象の大切さについて復習。 (身だしなみ) 社会人として求められる身だしなみを復習、改善につなげることができる。 (挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さについて復習。
3回目		(表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。ペアで相互チェックを行う。 (立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いについて復習。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等) (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
4回目		(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
5回目		(来客対応の基本) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を習得することができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
6回目		(来客対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
7回目		(報告書作成) 報告書の書き方を復習し、実際に記入する。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる(話し言葉・書き言葉)
8回目		(封筒) 封筒の書き方の基礎を学び、実際に記入する。 (FAX) FAXを送る際のマナーを学ぶ。
9回目		(電話対応) 社会人として正しい電話対応の仕方を復習する。 (言葉遣い) 社会人として正しい言葉遣いを身に着けることができる(電話対応での言葉遣い)
10回目		(電話対応) 電話に出る正しい姿勢・声の出し方を習得することができる。 (言葉遣い) 社会人として正しい言葉遣いを身に着けることができる(電話対応での言葉遣い)
11回目		(電話対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
12回目		(テスト前総復習) 後期で習得した内容を網羅したロールプレイ、言葉遣いの総復習を行う。
13回目		(後期試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
14回目		(試験解説) 初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。
15回目		(総復習) 1年間を通しての質疑応答を行い、自分の行動に自信を持つことができるようになる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
パワーポイントを使っの授業。 適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。		

授業シラバス

科目名 (英)	セルフスタイリング (MCTトレーニングⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	MC trainingⅡ	授業 形態	演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経歴】							
関西一円のホテルやゲストハウス等にて婚礼司会を担当、セレモニーやイベント等の司会も行っている。 CMやナレーション、舞台などでも、声を活かした仕事をこなす。コンテスト対策のスピーチトレーナーも担当した。							
【授業の学習内容】							
相手に『伝える』というのはとても大切です。表情であったり声や活舌、相手の耳にどのように届くのかを考え話す、相手が理解できるように話す、良い印象を残す話し方をする等、様々な観点からみて、話す・伝えるを学ぶ。							
【到達目標】							
声を出すという基本を学び、人に伝える大切さ、言葉の意味を知り自ら積極的に綺麗な発音と共に挨拶や自己紹介、自信を持って発言ができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		自分を知る事からスタート (自身の口の開け方や声の出し方声のトーン等、癖を知ることができる)
2回目		腹式呼吸を覚えよう (腹式で声を出す事に意識できるようになる)
3回目		声の出し方と五十音 (発声の大切さと1語1語の重要性を理解することができる)
4回目		単語と息の吐く場所 (単語や文章において、ブレスのタイミングを知ることができる)
5回目		滑舌トレーニング (早口言葉で滑舌を鍛える)
6回目		アクセント・イントネーション・ベース・ポーズ (話し方のルールを知ろう)
7回目		自己紹介のプロになる
8回目		短文で慣れる (短い単語や文章を上京に応じて話してみる)
9回目		物語を読むpart 1 (子供向けの絵本を感情込めて読めるようになる)
10回目		物語を読むpart 2 (子供向けの絵本を感情込めて読めるようになる)
11回目		シチュエーション別原稿の読み方part1 (明るく・真面目に・暗く・モノマネ等)
12回目		シチュエーション別原稿の読み方part2 (グループ練習)
13回目		自己紹介+自己PR (面接場において自己紹介・自己PRをどのようにするかを考えることができる)
14回目		自己紹介+自己PR (面接場において自己紹介・自己PRをどのようにするかを実践できるようになる)
15回目		まとめ

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・自己紹介+PRを試験とし、その完成度とする
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
講師配布プリント	

授業シラバス

科目名 (英)	セルフスタイリング (ヘルスビューティーⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Health Beauty II	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科			2		曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
2013年 スタジオパキラ入社 プライダルヘアメイク アシスタントを開始 2015年 フリーランスとして活躍。 プライダルヘアメイクを中心に、企業広告、ファッションショー、sns用ヘアメイク、婚活メイクセミナーなどを行っています。							
【授業の学習内容】							
基本の就活メイクについて 業界別メイクの特徴を知る ①栄養素の働きについて学習する ②ライフスタイルにあった健康的な食生活について学習する。							
【到達目標】							
自分の顔を知り 自分に似合った印象の良いメイクができるようになること 自分の食生活および食行動の問題点を改善し、健康的かつ美しいbodyとなるようライフスタイルに合わせた実現可能な食事を選択出来るようになる。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		基本の就活メイク① 基礎知識、スキンケア～ベース、アイブロウ					
2回目		前回テスト(ベース～アイブロウまで) 基本の就活メイク② アイメイク、チーク、リップ					
3回目		基本の就活メイクテスト(フルメイク) 印象の良い顔のつくり方 就活用 ヘアスタイル シニヨン					
4回目		前回テスト(印象の良い顔) 自分に合う色の見つけ方					
5回目		前回テスト(自分に合う色で印象の良いメイク、就活用ヘア) 業界別就活メイク① エアライン(エアライン別メイクの特徴) ホテル、観光					
6回目		前回テスト 業界別就活メイク② エアライン(エアライン別メイクの特徴) ホテル、観光					
7回目		前回テスト 就活用ヘアスタイル、総復習					
8回目		総合テスト、評価 面接前の身だしなみチェック(メイク崩れ対処法など)					
9回目		栄養素の働きについて コンビニで購入した食事を確認しながら、栄養素を学び、日常に活かすことができる。					
10回目		栄養素の働きについて コンビニで購入した食事を確認しながら、栄養素を学び、日常に活かすことができる。					
11回目		中食の選択方法					
12回目		自分の食事の問題点を抽出し改善目標をたてる 1か月ごとの授業において、個人の食事を振り返りながら食生活を見つめなおすことができる。					
13回目		①食事の問題点が改善されたか振り返る 1回目の授業の知識を忘れていないかを確認することができる。					
14回目		②食事の問題点が改善されているか振り返る 前期の授業を振り返りながら、後期への新たな目標を立てる。					
15回目		授業の振り返り、まとめ					
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・「総合テスト」の点数を換算する					
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネススキル (PRテクニック)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	
	PR Techniqu	授業 形態	講義 実習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科			2	曜日/時限	金曜 4限	
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
ケアンズハネムーン&ウエディング@cairnshoneymoonの記事を作成し、投稿する。(最低 週に一度) フォロワー数を増やすための取り組みを行う。							
【到達目標】							
ケアンズハネムーン&ウエディング@cairnshoneymoonのフォロワー数を増やす 6月12日現在:84名 ♡数を競う記事作成プロジェクトを通して、チームマネジメント能力を身につける							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		オリエンテーション:授業内容の把握、グループ分け発表、役割分担、ルール決め、「ケアンズとは？」レポート作成 提出:「ケアンズとは？」レポート					
2回目		記事作成演習を通して、チームで記事を作成する練習をすることができる。 提出:演習記事					
3回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
4回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
5回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
6回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
7回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
8回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
9回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
10回目		「いいね」数中間発表					
11回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
12回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
13回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
14回目		チームで協力しながら記事作成・投稿をすることができる。計画書/報告書を作成・提出できる。					
15回目		まとめ、総評					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・チーム毎の♡数、コメント数、全体のフォロワー数						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	業界研究 (企業研究IV) Business Reserch IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

【授業の学習内容】

企業様より取り組み課題をいただき、自発的に調査、リサーチを行ったうえでチームワーク力を高めながらプランニング・プレゼンテーションを行う。

【到達目標】

企業様からの課題をしっかりと理解した上で、グループで課題に取り組み、プレゼンテーションを行うことができる。

回数	授業計画・内容
1回目	企業プロジェクトの目的、心構えについて学ぶ。事前準備として、自己紹介を含むグループ分けを行うことができる。
2回目	企業様から課題発表。課題に対して取り組まなければならない事項を理解することができる。チーム発表。
3回目	プレゼンテーション発表までのスケジュールを組むことができる。 取り組み方について考えることができる。
4回目	課題に対してリサーチすることができる①
5回目	課題に対してリサーチすることができる②
6回目	課題に対してリサーチすることができる③
7回目	中間発表: 企業様に対し、課題に対する取り組みの進捗状況を報告し、この先の取り組み方について考え直すことができる。
8回目	中間発表でいただいた企業様のフィードバックを行い、改めて取り組みを再開する。
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	課題に対してリサーチし、報告書、プレゼンテーション資料を作成する。
14回目	最終プレゼンテーションに向けて、練習、資料の見直しを行うことができる。
15回目	最終プレゼンテーション: 企業様から取り組みに対する評価をいただく。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は「発表内容」で行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	